



平成 30 年 8 月 13 日

各 位

会社名 神戸天然物化学株式会社
 代表者名 代表取締役社長 宮内仁志
 (コード番号 6568 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役経営企画室長 先砥庸治
 (TEL. 078-993-2203)

(訂正)「平成 31 年 3 月期第 1 四半期 決算補足説明資料」の一部訂正について

平成 31 年 8 月 10 日付で開示いたしました「平成 31 年 3 月期第 1 四半期 決算補足説明資料」の記載内容に一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

訂正箇所

2 ページ 2019年3月期第1四半期 経営成績

(訂正前)

(百万円)	2017/3 期	2018/3 期		2019/3 期		前年比較	2019/3 期 進捗率
		1Q	通期	1Q	通期		
売上高	4,768	1,606	6,312	1,405	6,450	87.5%	21.8%
機能材料分野	2,358	-	2,962	812	2,900	-	28.0%
医薬分野	1,757	-	2,881	355	2,900	-	12.3%
バイオ分野	652	-	468	237	650	-	36.6%
営業利益	708	388	1,222	325	1,300	83.7%	25.0%
経常利益	740	<u>365</u>	1,208	348	1,300	<u>78.8%</u>	26.8%
当期純利益	484	<u>269</u>	900	255	920	<u>83.4%</u>	27.8%
EBITDA*	1,544	-	2,004	498	2,164	-	23.0%
EBITDA マージン	32.4%	-	31.7%	35.5%	33.6%	-	-

(訂正後)

(百万円)	2017/3 期	2018/3 期		2019/3 期		前年比較	2019/3 期 進捗率
		1Q	通期	1Q	通期		
売上高	4,768	1,606	6,312	1,405	6,450	87.5%	21.8%
機能材料分野	2,358	-	2,962	812	2,900	-	28.0%
医薬分野	1,757	-	2,881	355	2,900	-	12.3%
バイオ分野	652	-	468	237	650	-	36.6%
営業利益	708	388	1,222	325	1,300	83.7%	25.0%
経常利益	740	<u>405</u>	1,208	348	1,300	<u>86.1%</u>	26.8%
当期純利益	484	<u>284</u>	900	255	920	<u>90.1%</u>	27.8%
EBITDA*	1,544	-	2,004	498	2,164	-	23.0%
EBITDA マージン	32.4%	-	31.7%	35.5%	33.6%	-	-

以上



平成31年3月期第1四半期
決算補足説明資料

証券コード：6568

2018年8月10日



- 売上高は分野別進捗率に差異があるものの、概ね予定通りに推移
- 特にバイオ分野は順調な滑り出し。一方、医薬分野の売上は下期偏重の計画
- EBITDAマージンは35%超を達成

経営成績の推移

(百万円)	2017/3期	2018/3期		2019/3期		前年比較	2019/3期 進捗率
		1 Q	通期	1 Q	通期見通し		
売上高	4,768	1,606	6,312	1,405	6,450	87.5%	21.8%
機能材料分野	2,358	-	2,962	812	2,900	-	28.0%
医薬分野	1,757	-	2,881	355	2,900	-	12.3%
バイオ分野	652	-	468	237	650	-	36.6%
営業利益	708	388	1,222	325	1,300	83.7%	25.0%
経常利益	740	405	1,208	348	1,300	86.1%	26.8%
当期純利益	484	284	900	255	920	90.1%	27.8%
EBITDA*	1,544	-	2,004	498	2,164	-	23.0%
EBITDAマージン*	32.4%	-	31.7%	35.5%	33.6%	-	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



- 自己資本比率は73.5%
- 買入債務の決済が集中したことによる現預金の減少等が、総資産減少の要因
- 固定資産の増加は限定的であり、大型設備投資の影響はこれから

財政状態の推移

(百万円)	2016/3期	2017/3期	2018/3期*	2019/3期 1Q	前期末差異	増減率
流動資産	2,368	3,185	7,124	6,428	△ 695	△ 9.8%
現預金	835	1,262	5,413	4,612	△ 801	△ 14.8%
棚卸資産	679	941	975	1,124	+ 148	+ 15.2%
その他	854	980	735	692	△ 43	△ 5.9%
固定資産	6,313	5,653	5,563	5,515	△ 47	△ 0.9%
総資産	8,681	8,838	12,688	11,944	△ 743	△ 5.9%
負債	4,898	4,654	3,951	3,165	△ 786	△ 19.9%
有利子負債	4,051	3,236	2,256	2,211	△ 44	△ 2.0%
その他	846	1,418	1,695	953	△ 741	△ 43.7%
純資産	3,783	4,183	8,736	8,779	42	+ 0.5%
負債純資産合計	8,681	8,838	12,688	11,944	△ 743	△ 5.9%

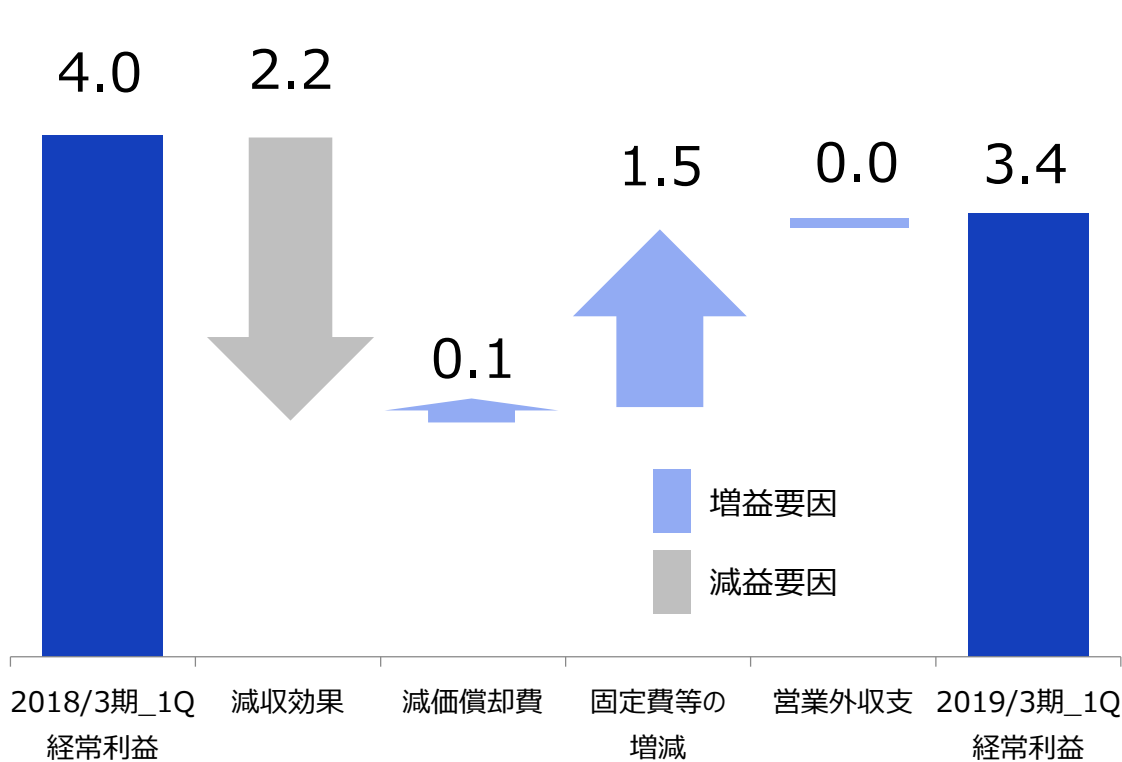
*『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』等を2018/3期から適用したものと記載しております。



- 当期は売上が下期偏重予定である医薬品の減収が影響し、前年比では経常減益
- ただし、操業度改善などで減益要因は大幅に減殺。受注残高も順調に拡大

2019年3月期_第1四半期 経常利益の増減要因

(億円)



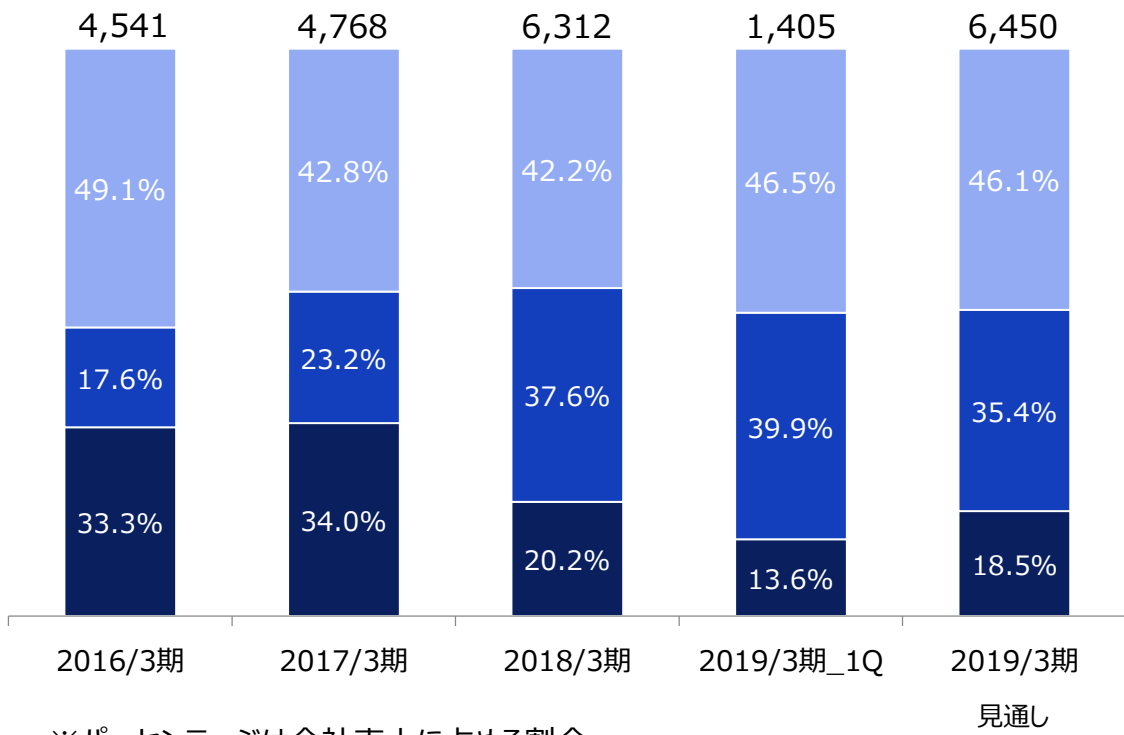
- 減収効果 Δ 2.2億円
 - 医薬分野の売上高減少が影響
 - ただし、これは今期の売上が下期偏重型となるため
 - 全社の受注残高は前年を上回る
 - バイオ増収はプラス要因も、医薬減収の影響は吸収できず
- 減価償却費の減少 +0.1億円
- 固定費等の減少による増益 1.5億円
 - 第2四半期以降の販売に向けての、在庫積増、操業度改善が寄与



- 2019年3月期第1四半期は、概ね予定通りの進捗
- 研究、開発ステージの売上比率変動はスポット受注の影響。通期では平準化の見通し

ステージ別売上割合推移

(百万円) ■ 量産 ■ 開発 ■ 研究



- 全社ステージ別売上高は概ね予定通りに推移
- 機能材料分野では、量産ステージが先行。増産効果が期待できる体制を継続
- 医薬分野では、量産ステージ及び研究ステージが計画を上回って推移。ただし、開発ステージは売上計上時期が下期偏重型となるため、1Qではやや停滞
- バイオ分野は研究・開発ステージが伸長

※パーセンテージは全社売上に占める割合

CSR活動として、「しまねガールズ・サイエンスプロジェクト」に協力

「しまねガールズ・サイエンスプロジェクト」：
国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)による
「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の一環
(主催 国立大学法人 島根大学 男女共同参画推進室)

出雲第一工場見学、化学実験、
リケ女インタビュー(当社社員)等を島根県の女子中学生が体験





< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-993-2203 (代表)
Knc-IR@kncweb.co.jp